

池ノ下遺跡 川津井手の上遺跡

—国道・県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成9年3月

香川県埋蔵文化財研究会

池ノ下遺跡

例　言

1. 本書は県道飯野宇多津線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査概要報告書である。
2. 本遺跡は丸亀市飯野町に所在する。
3. 調査は香川県土木部道路建設課より依頼を受け、香川県教育委員会が実施した。
4. 調査は文化行政課文化財専門員木下晴一が担当した。
5. 本書挿図中のレベル高はすべて海拔、方位は国土座標第Ⅳ系の北を示す。
6. 挿図の一部に建設省国土地理院発行の50,000分の1地形図「丸亀」及び5,000分の1国土基本図を使用した。
7. 発掘調査、整理作業を通じて香川県善通寺土木事務所、丸亀市教育委員会、(財)香川県埋蔵文化財調査センター、丸亀市飯野土地改良区、土器川右岸連合土地改良区、その他関係各位より多大な御協力、御援助を得た。(順不同)
8. 本書の執筆、編集は木下が行った。
9. 出土遺物は香川県教育委員会が保管し、坂出市府中町南谷5001-4 香川県埋蔵文化財センターに収蔵している。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 遺跡の立地と環境	3
第3章 調査の成果	6
第4章 まとめ.....	12

挿図目次

第1図 調査位置図	1
第2図 トレンチ配置および遺跡位置図	2
第3図 地形分類図	4
第4図 周辺の遺跡	5
第5図 掘立柱建物 平・断面図	6
第6図 遺構配置図	7
第7図 北地区 溝状遺構断面図	8
第8図 南地区 北壁断面およびSD07断面	8
第9図 出土遺物実測図(1)	9
第10図 出土遺物実測図(2).....	10
第11図 出土遺物実測図(3).....	11

表目次

第1表 試掘調査トレンチの概要	1
第2表 遺物観察表(1)	9
第3表 遺物観察表(2).....	11

写真目次

写真1 調査前状況（南から）	17
写真2 北地区 遺構掘削状況（北から）	17
写真3 掘立柱建物（南から）	17
写真4 北地区 溝状遺構（西から）	18
写真5 南地区 北壁断面（南から）	18
写真6 南地区 SD07掘削状況（南東から）	18

第1章 調査に至る経緯と経過

県道飯野宇多津線は、土器川右岸を南北に走る県道岡田丸亀線から丸亀市飯野町板屋付近で分岐し、飯野山西北麓をかすめ北上し、青ノ山東麓のトンネルを抜けて宇多津町に至る延長約6kmの県道である。このうち青ノ山山麓より南は近世の金比羅参詣道（宇多津道）と重複する。この県道飯野宇多津線の路線うち国道11号線以南については車両の対向が困難な箇所があるなど道路幅員が狭く、混雑緩和と交通安全のために香川県によりバイパス工事を主体とする道路改修が進められている。

この改修事業に対し、香川県教育委員会では「事業対象地内に周知の埋蔵文化財包蔵地は所在しないが、事業範囲が広大なため分布調査を実施する」ことで協力を要請し、平成7年8月に分布調査を行った。この結果、事業対象地内に微高地があり遺跡が所在する可能性が認められたので、県普通寺土木事務所と試掘調査を行うことで協議が整った。

試掘調査は、用地買収の進捗状況にあわせて平成7年8月8日、10月4日及び平成8年4月15日の3回に分けて行った。試掘調査によるトレンチの概要を第1表にまとめる。この結果、第2図に示す275m²の範囲は文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断された。遺跡名は小字から「池ノ下遺跡」とした。その後、普通寺土木事務所との協議の結果、本調査を平成8年度秋に文化行政課が行うこととし、10月7日から21日までの間で実施した。調査は降雨が多く難渋したが、実勤8日間で終了した。

調査の結果、検出遺構が調査対象地外で事業対象地内に延びる可能性が生じたため、工事施工業者の協力により、平成9年11月26日、10年1月13日に工事立会調査を行った。

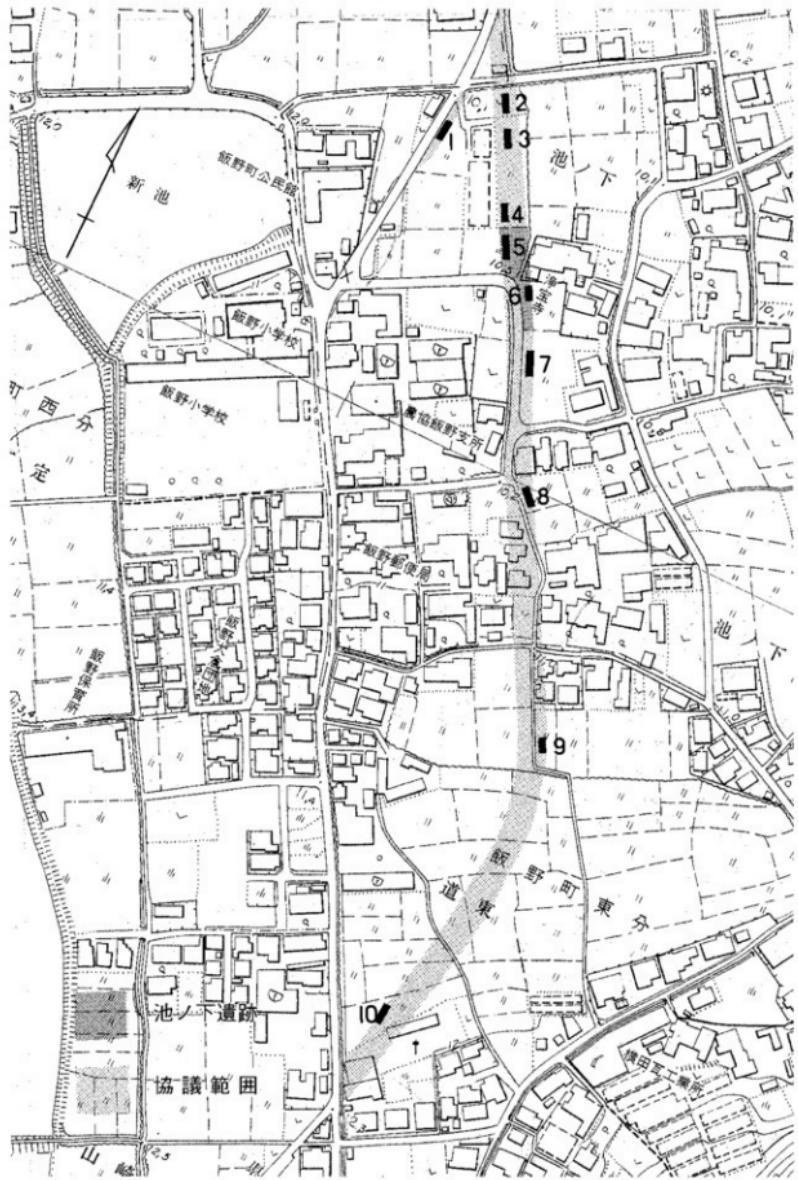
出土遺物の整理作業は、香川県埋蔵文化財センター等で適宜行った。



第1図 調査位置図 (1/50,000「丸亀」)

番号	規模(幅×長さ)	遺構	遺物	所見
1 トレンチ	1×9	なし	なし	地表下65cmで礫混じり灰色砂層を検出
2 トレンチ	1.5×10	なし	中世土器片少量	地表下20cmで厚さ2cmの包含層(灰色シルト層)を検出
3 トレンチ	1.5×9	溝1	中世土器片少量	2トレンチに同じ
4 トレンチ	1×12	なし	なし	2トレンチに同じ
5 トレンチ	1×13	溝1・ビット2	須恵器・土師器片	地表下35cmで厚さ8cmの包含層(明灰色粘質土層)を検出
6 トレンチ	1×5	落ち込み・ビット	中世土器	北端で地山が落ち込む、埋土から中世土器多数出土
7 トレンチ	1×7	なし	なし	地表下1mまで擾乱されている
8 トレンチ	1×8	なし	なし	耕作土直下に地山(橙灰色シルト質土層)
9 トレンチ	1×5	なし	なし	8トレンチに同じ。遺構・遺物なし
10 トレンチ	1.5×10	なし	なし	8トレンチに同じ。遺構・遺物なし

第1表 試掘調査トレンチの概要



第2図 トレンチ配置および遺跡位置図(縮尺1/2,500)

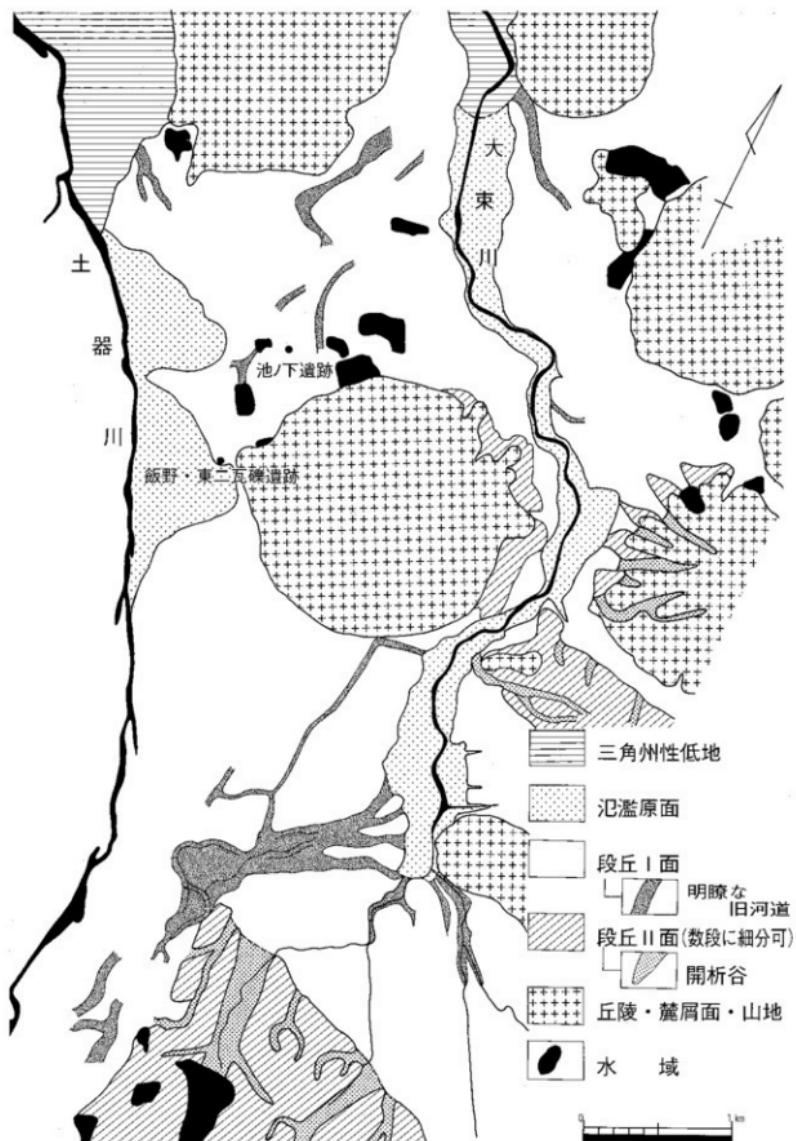
第2章 立地と環境

調査地は、ビュートと呼ばれる円錐形の独特の山容の飯野山（標高422m）の北西麓から300mほど離れた、青ノ山と飯野山の間に広がる南北約1.5km程の広さの平野中に位置する。この平野は、西方の土器川と東方の大東川に挟まれているが、等高線の観察や旧河道の方向から土器川がかつて大東川方向に流れていた時代に形成されたことがわかる。土器川、大東川は、現在、この時に形成された地形面を開析しており段丘化している。段丘化した時期は過去に検討したことがあるので繰り返さないが¹⁰、古代末～中世と推定され、これによって、ただでさえ少雨の瀬戸内式気候に加え灌漑用水の確保が重要な問題となった。現在、この平野西部の主要な灌漑用水は、かなり上流の土器川から取水するもので、段丘崖に沿って流下している。飯野山西麓には、氾濫原面の形成によって段丘面の東西幅が約70mと極めて狭い地点があり、この地点が平野西部の利水を考えるうえで喉元とも言える重要地点となる。四国横断自動車道建設に伴って発掘調査の行われた飯野・東二瓦礫遺跡¹¹の東端の調査区がこの地点にあたり、中世と推定される重複する数多くの溝状遺構が検出されている。また、その西には方形区画の溝で開拓された鎌倉から室町時代にいたる屋敷跡が検出されており、周辺での遺跡のあり方が明確でないので断定はできないが、用水管理もしくは用水権を掌握する位置に所在している可能性が想定できる。

また、山崎新池南側の飯野山南麓に所在する山崎南遺跡は、四国横断自動車道建設に伴って調査がおこなわれ、古墳時代の円筒埴輪片などが出土している。この他、池ノ下遺跡の周辺およそ500mの範囲における周知の遺跡に、（仮称）藤高池遺跡と柳池遺跡があげられる。（仮称）藤高池遺跡は藤高池東岸において弥生～中世の土器片が採集され、柳池遺跡は柳池の池敷から土器・石織が採集されているもので、ともに遺跡の内容は明確でない。また、柳池の西側の水田中に角礫凝灰岩製の宝筐印塔が所在している。

この他、この地域では焼き物に良質な粘土が採集され、青ノ山山麓には6世紀後半の須恵器窯が知られているほか、近世以降現在に至るまで窯場があり瓦、靖壇などの生産が盛んである。

- (1) 拙稿「遺跡の立地と環境」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第十六冊 川津二代取遺跡』 1995. 3 香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公团
拙稿「条里型地割施工以後の微地形変化－丸亀市飯野町付近の事例－」<香川地理学会会報>No11
1991. 6
- (2) 山下平重ほか『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第二十冊 飯野・東二瓦礫遺跡』 1996. 3 香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公团





第4図 周辺の遺跡（縮尺1/10,000）

- 1. 池ノ下遺跡
- 2. 飯野・東二瓦礫遺跡
- 3. 山崎南遺跡
- 4. (仮称) 藤高池遺跡
- 5. 柳池遺跡
- 6. 石塔所在地

第3章 調査の成果

1. 調査区の設定

調査対象地は二筆の水田で面積は約275m²である。淨宝寺の西側の水田を北地区、南側の水田を南地区と呼称することとした。

2. 基本層序

調査地の標高はT.P.約10mで、厚さ約20cmの水田耕作土直下に基盤層である黄灰色小礫混じりのシルト質土層が現れる。この層の上面で遺構が検出された。なお、試掘調査の10トレンチではこの層の下層でテフラ層を検出している。丸亀平野での検出事例と層相・層序からA T（姶良丹沢火山灰）と推定される。

3. 遺構と遺物

①概況

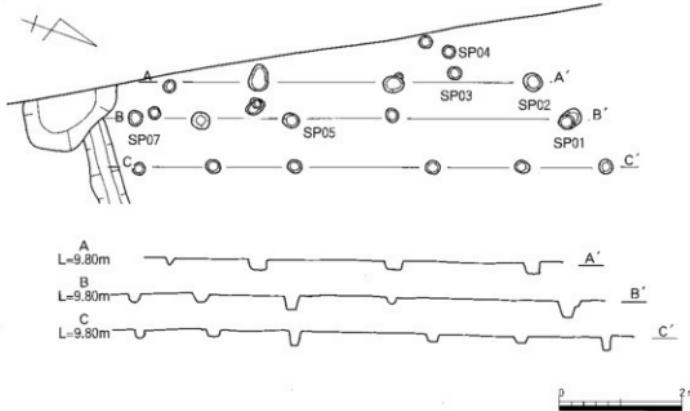
北地区で掘立柱建物1棟のほかピット、土坑、5条の溝状遺構、南地区で土坑と2条の溝状遺構を検出した。このうち北地区の溝状遺構のうちの1条と土坑、南地区的1条の溝状遺構が近世以降のものと推定され、以外は中世のものである。以下に個々の遺構について述べる。

②掘立柱建物跡

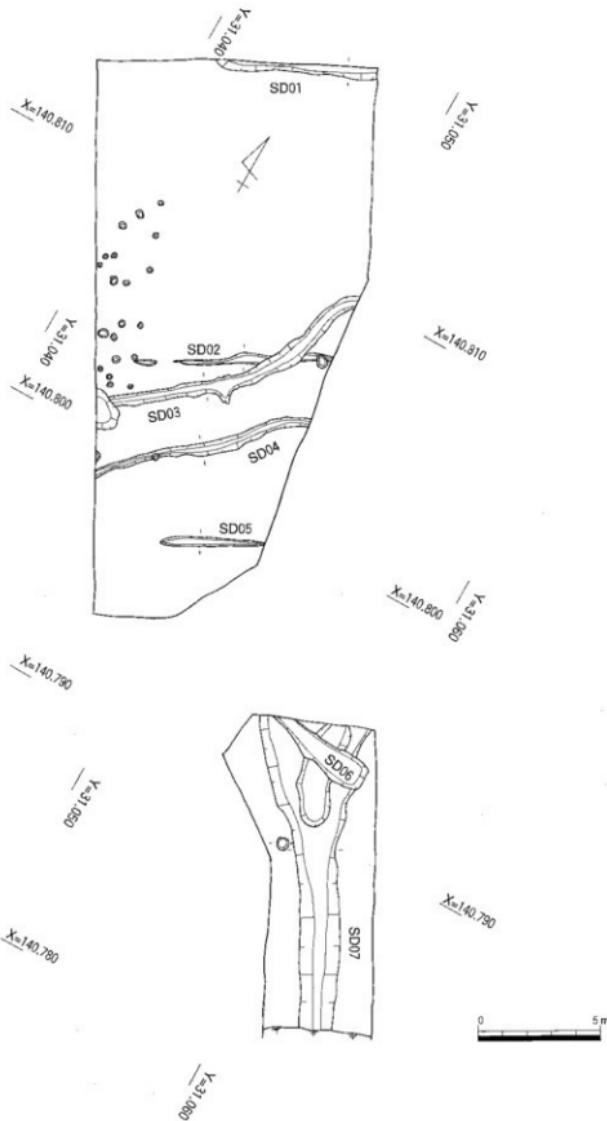
第5図に示すとおり3列の柱穴があり、桁行7.6m・梁行2.7m以上の建物跡と推定される。西側は調査区外になる。方位は座標北から西へ19°振っている。図化遺物のはかにS P04から土師質土器小皿、S P01～03から器種不明の土師質土器細片が出土している。

③北地区 溝状遺構

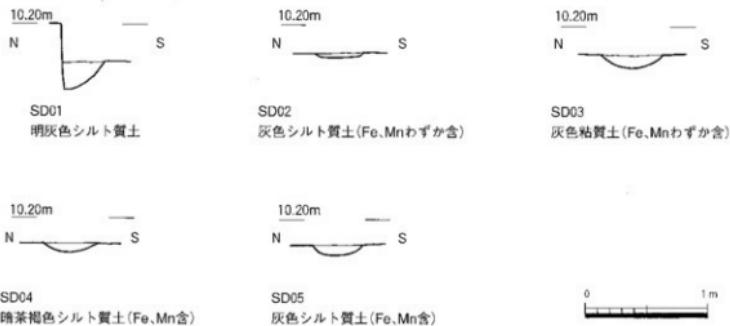
北地区で西南から東北方向へ流れる5条の小規模な溝を検出した。S D01からは羽釜脚部破片、器種不明の土師質土器細片、S D02からは器種不明の須恵器細片、S D05から土師質土器杯の破片が出土している。



第5図 掘立柱建物 平・断面図



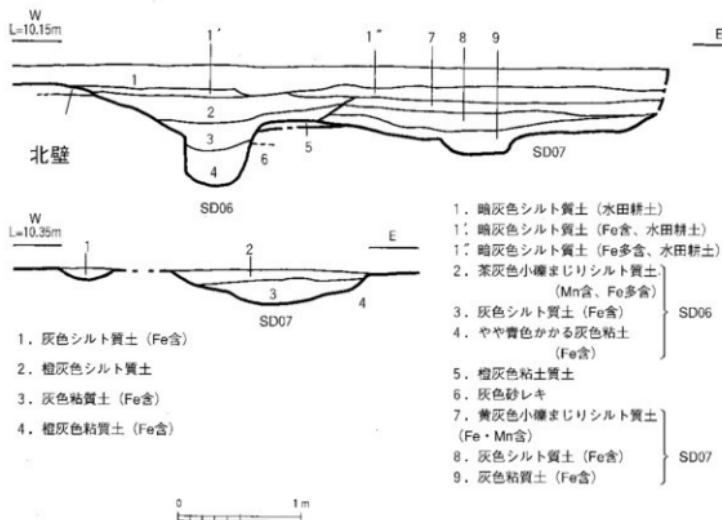
第6図 造構配置図



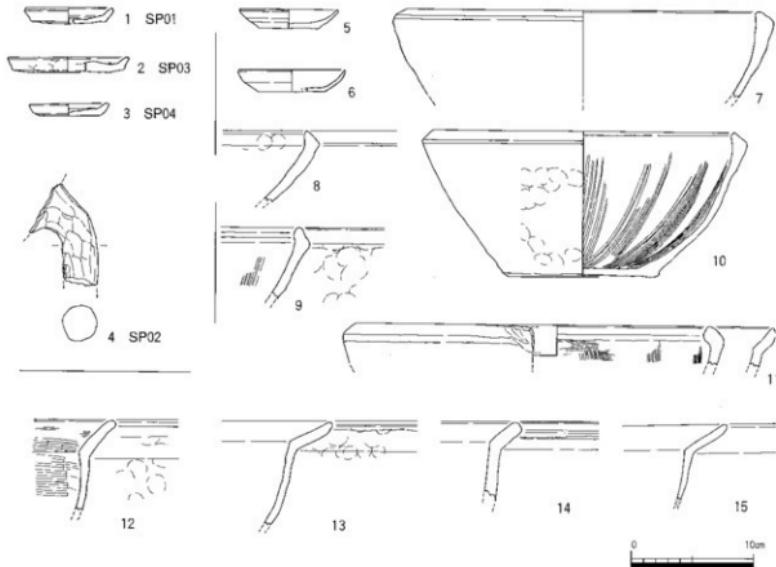
第7図 北地区 溝状造構断面図

④南地区 溝状造構

南地区では北から29.5°西に振る方位で流れる幅1.6m、深さ0.3mの断面皿状のSD07とそれを壊す東西方向の幅1.2m、深さ0.7mのSD06を検出した。SD07からは28cm入りコンテナ3箱分の土器片が最下層の灰色粘質土層を中心に出土した。第9図5~15、第10図16~28はSD07出土の遺物実測図である。



第8図 南地区 北壁断面およびSD07断面

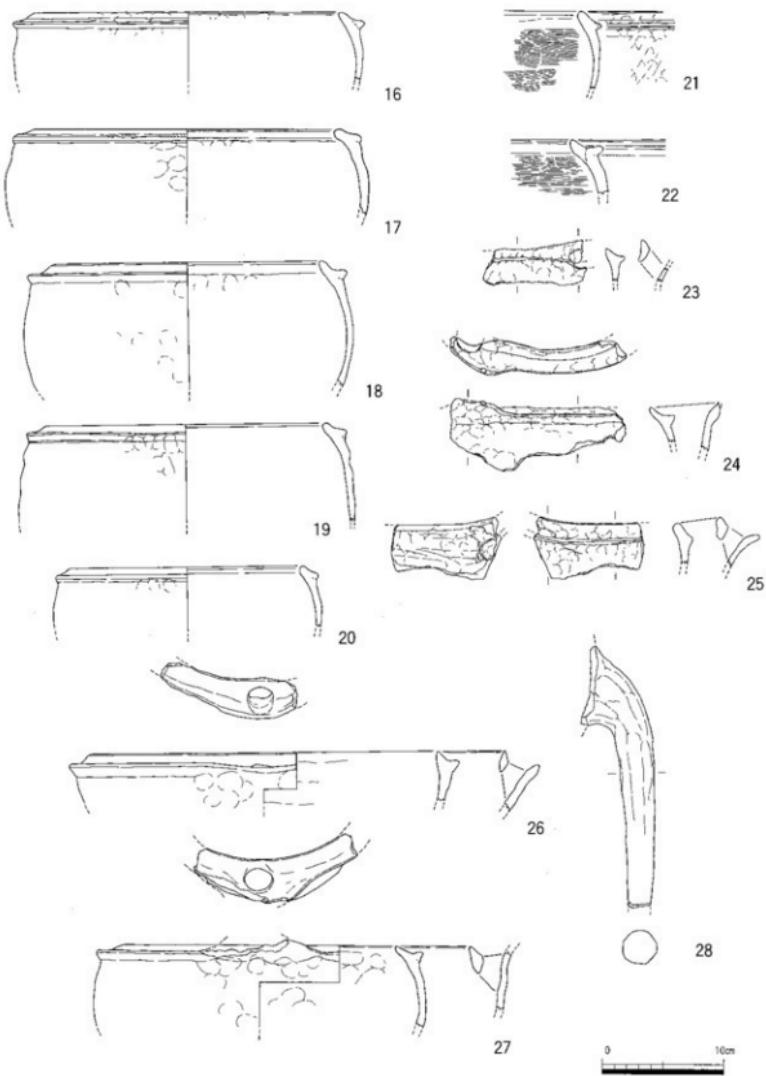


第9図 出土遺物実測図(1)

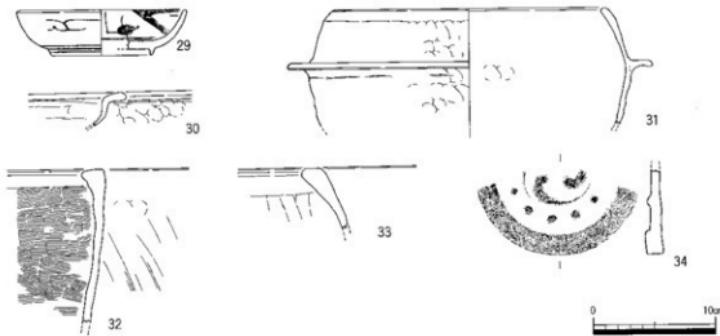
番号	器種	口径	底径 高さ	胎土	色調	残存率	出土地
1	土師質土器 小皿	7.4	6.2 1.3	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外 10YR8/2 灰白	1/2	S P01埋土
2	土師質土器 小皿	10	9.2 1.2	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外 10YR8/2 灰白	底部1/4	S P03埋土
3	土師質土器 小皿	6.6	5.3 1.0	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外 10YR8/2 灰白	完形	S P04埋土
4	土師質土器 羽釜 (脚部)			1.0mm以下の砂粒わずか含	内 5Y6/1 灰 外 2.5Y6/1 黄灰	脚部	S P02埋土
5	土師質土器 小皿	7.9	5.0 1.6	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外 10YR8/3 浅黄橙	底部1/4	S D07
6	土師質土器 小皿	8.7	5.5 1.8	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外 10YR8/2 灰白	完形	S D07
7	土師質土器 鉢	31.2		3.0mm以下の石英など多量	内外 10YR8/3 浅黄橙	口縁1/5	S D07
8	土師質土器 鉢			2.0mm以下の砂粒含	内 10YR8/4 浅黄橙 外 10YR8/2 灰白	小破片	S D07
9	土師質土器 横鉢			2.0mm以下の砂粒多く含	内外 2.5Y8/1 灰白	小破片	S D07
10	土師質土器 横鉢	24.5	12.7 12.0	2.0mm以下の砂粒多く含	内 2.5Y4/1 黄灰 外 2.5Y5/1 黄灰	完形	S D07
11	土師質土器 横鉢	29.2	0.5mm以下の砂粒含		内外 10YR8/2 灰白	口縁1/8	S D07
12	土師質土器 土鍋			2.0mm以下の砂粒含	内 10YR8/3 浅黄橙 外 10YR7/4 にぶい黄橙	小破片	S D07
13	土師質土器 土鍋			2.0mm以下の石英など多量	内 10YR8/3 浅黄橙 外 10YR6/2 灰黄褐	小破片	S D07
14	土師質土器 土鍋			1.0mm以下の石英など多量	内 7.5YH7/6 棕 外 10YR7/6 明黄褐	小破片	S D07
15	土師質土器 土鍋			3.0mm以下の石英など多量	内 10YR8/2 灰白 外 10YR8/3 浅黄橙	小破片	S D07

石英など；石英などの白色粒を包含する。 砂粒：白色粒、赤色粒を包含する。

第2表 遺物観察表(1)



第10図 出土遺物実測図(2)



第11図 出土遺物実測図(3)

番号	器種	口径 底径 器高	胎 土	色調	残存率	備考
16	土師質土器 羽釜	24.8	3.0mm以下の石英など多量	内 10YR8/3 浅黄橙 外 10YR7/4 にぶい黄橙	口縁1/6	S D 07
17	土師質土器 羽釜	25.2	3.0mm以下の石英など多量	内 2.5YR7/3 淡赤橙 外 10YR8/2 灰白	口縁1/6	S D 07
18	土師質土器 羽釜	22.6	2.0mm以下の石英など多量	内外 10YR8/3 浅黄橙	口縁1/6	S D 07
19	土師質土器 羽釜	22.8	2.0mm以下の石英など含	内外 2.5Y8/2 灰白	口縁1/7	S D 07
20	土師質土器 羽釜	19.2	2.0mm以下の砂粒含	内 10YR6/2 灰黄褐 外 10YR6/3 にぶい黄橙	口縁1/7	S D 07
21	土師質土器 羽釜		2.0mm以下の砂粒含	内外 10YR8/3 浅黄橙	小破片	S D 07
22	土師質土器 羽釜		2.0mm以下の砂粒含	内外 2.5Y8/2 灰白	小破片	S D 07
23	土師質土器 羽釜		3.0mm以下の砂粒多く含	内 2.5Y8/2 灰白 外 7.5YR6/6 棕	小破片	S D 07
24	土師質土器 羽釜		2.0mm以下の石英など多量	内外 2.5Y8/3 浅黄	小破片	S D 07
25	土師質土器 羽釜		1.0mm以下の砂粒含	内 2.5Y8/3 浅黄 外 2.5Y7/2 灰黄	小破片	S D 07
26	土師質土器 羽釜	28.2	2.0mm以下の砂粒含	内 2.5Y8/2 灰白 外 2.5Y6/2 灰黄	口縁1/7	S D 07
27	土師質土器 羽釜	22.4	2.0mm以下の砂粒多く含	内外 10YR7/2 にぶい黄橙	口縁1/6	S D 07
28	土師質土器 羽釜 (脚部)		2.0mm以下の石英など多量	内外 10YR8/2 灰白	脚部	S D 07
29	染付 碗	13.6 8.1 3.8	砂粒含まず	断面 N8/ 染付 5B4/1 灰青灰	口縁1/5	S D 06
30	瓦質土器 焰焰		0.5mm以下の砂粒わずか含	内外 N2/ 黒	小破片	S D 06
31	瓦質土器 盖	22.1	0.5mm以下の砂粒含	内外 2.5Y4/1 黄灰	口縁1/6	S D 06
32	土師質土器 塵か火舎		1.0mm以下の砂粒多く含	内 10YR8/3 にぶい黄橙 外 5YR7/6 棕	小破片	S D 06
33	土師質土器 舟		2.0mm以下の砂粒多く含	内 10YR7/2 にぶい黄橙 外 10YR7/3 にぶい黄橙	小破片	S D 06
34	軒丸瓦		0.5mm以下の砂粒含	内外 N2/ 黒		S D 06

第3表 遺物観察表(2)

る。羽釜の形骸化した鋸部をもつものや口縁部外面に一对の外耳を有する羽釜（土鍋）が出土している。備前焼などの縦年の組立られている資料が共伴していないため、明確な年代観は得られないが中世後半のものと考えられる。なお、S D07の延長を確認するため調査区北側の浄宝寺敷地および調査区南側での道路工事の際に工事立会をおこなったが、ともに攪乱されていて流路の延長を確認することはできなかつた。

4.まとめ

周辺の条里型地割の方向と合致するS D07には、比較的多くの上器片が包含されていた。検出した流路が断片的であることから溝の性格は不明であるが、同一時期と考えられる北地区の掘立柱建物の存在も合わせて、集落遺跡の一部を調査したものと考えられる。今後、道路の開通によって進展するであろう周辺の開発に対して、調査を継続する必要がある。

ふりがな	いけのしたいせき・かわついでのうえいせき						
書名	池ノ下遺跡・川津井手の上遺跡						
副書名	国道・県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	木下晴一						
編集機関	香川県教育委員会						
所在地	〒760 香川県高松市番町2丁目1-10 NTTビル TEL 0878-31-1111						
発行年月日	1997年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
いけ 池ノ下遺跡	まるがめ し いい の もとくわい した 丸亀市飯野町池ノ下	市町村 37202	度 34°15'20"	度 133°49'20"	平成8年 10月7~21日	280m ²	県道改良
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
池ノ下遺跡	集落跡	中世	掘立柱建物・溝状遺構	中世土器			



写真 1

調査前状況（南から）

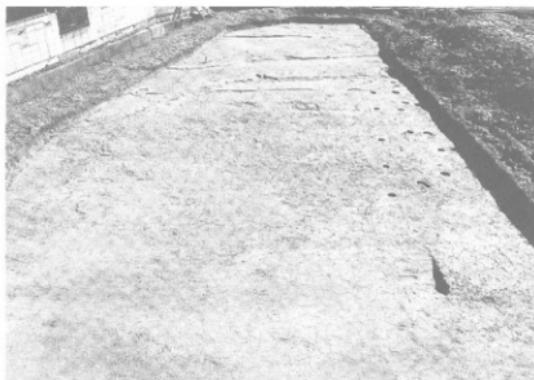


写真 2

北地区完掘状況（北から）



写真 3

掘立柱建物（南から）

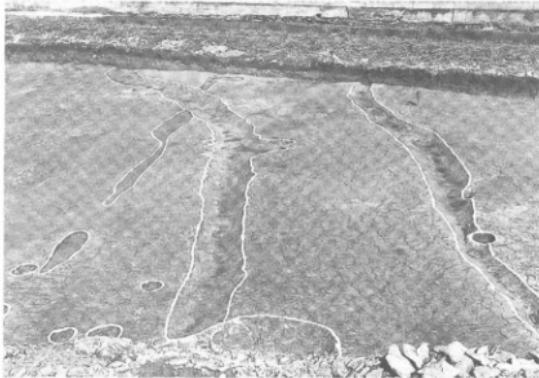


写真 4
北区溝状遺構（西から）

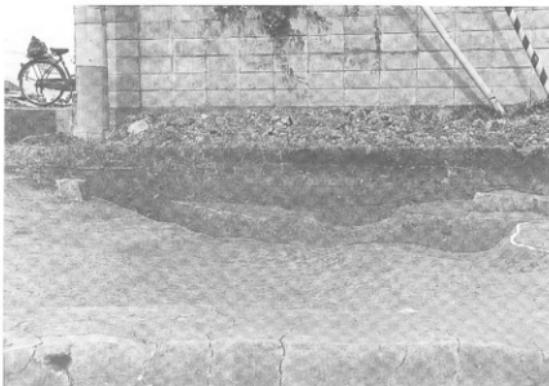


写真 5
南地区北壁断面（南から）



写真 6
南地区SD07掘削状況
(南東から)

川津井手の上遺跡

例　言

1. 本書は国道438号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査概要報告書である。
2. 本遺跡は坂出市川津町に所在する。
3. 調査は香川県土木部道路建設課より依頼を受け、香川県教育委員会が実施した。
4. 調査は文化行政課文化財専門員木下晴一が担当した。
5. 本書挿図中のレベル高はすべて海拔、方位は国土座標第Ⅳ系の北を示す。
6. 挿図の一部に建設省国土地理院発行の25,000分の1地形図「丸亀」を使用した。
7. 発掘調査、整理作業を通じて香川県坂出土木事務所、(財)香川県埋蔵文化財調査センター、その他関係各位より多大な御協力、御援助を得た。(順不同)
8. 本書の執筆、編集は木下が行った。
9. 出土遺物は香川県教育委員会が保管し、坂出市府中町南谷5001-4 香川県埋蔵文化財センターに収蔵している。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 調査の成果	4
第3章 まとめ	6

挿図目次

第1図 遺跡の位置および周辺の遺跡	1
第2図 試掘トレーニング配置および遺跡位置図	2
第3図 遺構配置図	2
第4図 土層断面図	3
第5図 溝状遺構 断面図	4
第6図 出土遺物実測図(1)	5
第7図 出土遺物実測図(2)	6

表目次

第1表 遺物観察表(1)	5
第2表 遺物観察表(2)	6

写真目次

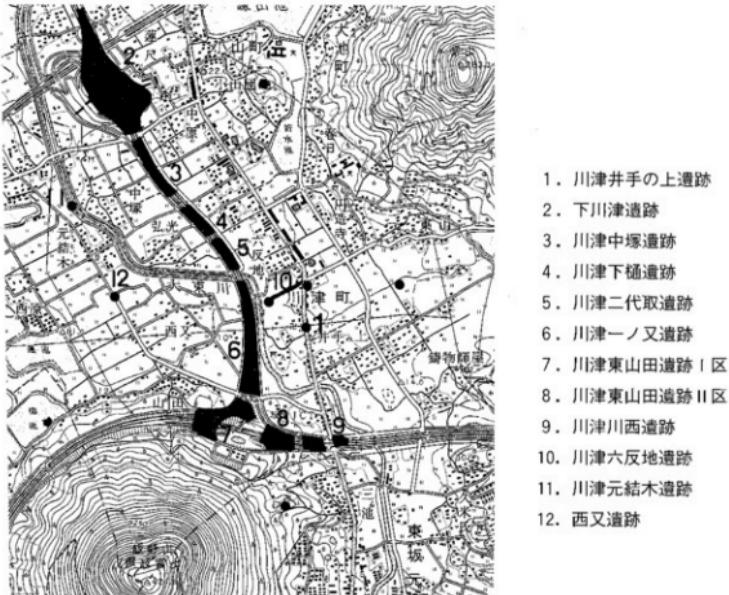
写真1 調査前状況（北から）	8
写真2 S H01検出状況（西から）	8
写真3 S H01掘削状況（西から）	8
写真4 作業風景	9
写真5 完掘状況（南から）	9
写真6 北端部掘削状況（北から）	9

第1章 調査に至る経緯と経過

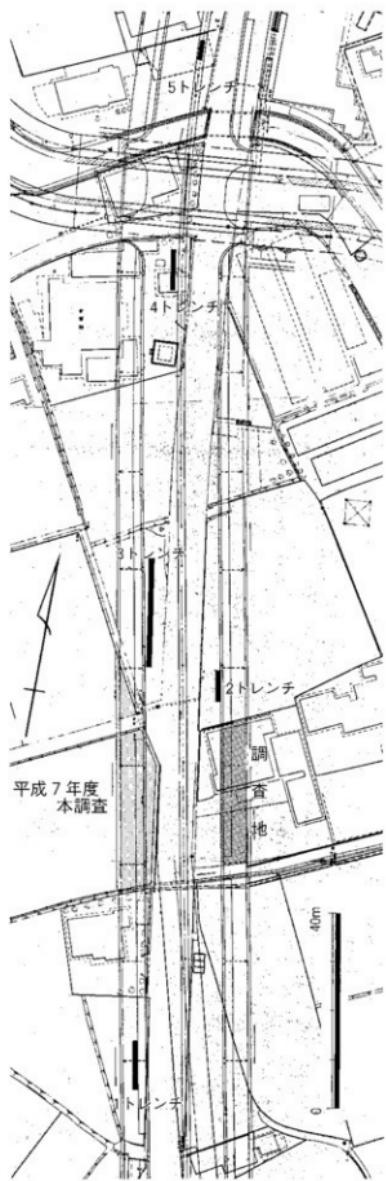
坂出市内の国道438号線の道路改修工事は、現在の国道の拡幅工事として進められ、用地買収および家屋の立ち退き等の完了した箇所から工事が進められている。香川県教育委員会は用地買収が比較的まとまった箇所について試掘調査等を平成5年度から実施し、「川津川西遺跡」「川津井手の上遺跡」「川津六反地遺跡」などの内容が明らかとなっている。平成8年度は4月9日に第2図に示す範囲で試掘調査を実施した。調査の結果、2、3トレンチにおいて溝状遺構1条、ピット1、不定形の落ち込み1と中世土器細片少量を採集した。しかしながら、遺構の密集度は低く遺存状況も悪いことから、1~5トレンチにかけての協議区間については、文化財保護法に基づく保護措置は不要と判断した^(注)。

これをうけて坂出土木事務所は道路工事に着手したが、11月下旬に工事箇所から弥生土器片が出土しているという情報が寄せられた。現地を確認したところ4月の試掘調査による2トレンチの南側の家屋立ち退き部分とその南側の地盤において、弥生土器の包含層および溝状遺構の存在することが確認された。工事の進行によって、約10mの拡幅範囲のうち、歩道範囲の幅4m弱の範囲以外は遺構面の下まで掘削が終了している状態であった。検出された遺跡の取扱いについて教育委員会では可能な限り記録保存することとし、坂出土木事務所の協力によって工事工程を調整し、12月2日から6日までの間、悪天候の中で調査を実施した。出土遺物の整理作業は、香川県埋蔵文化財センターで適宜おこなった。

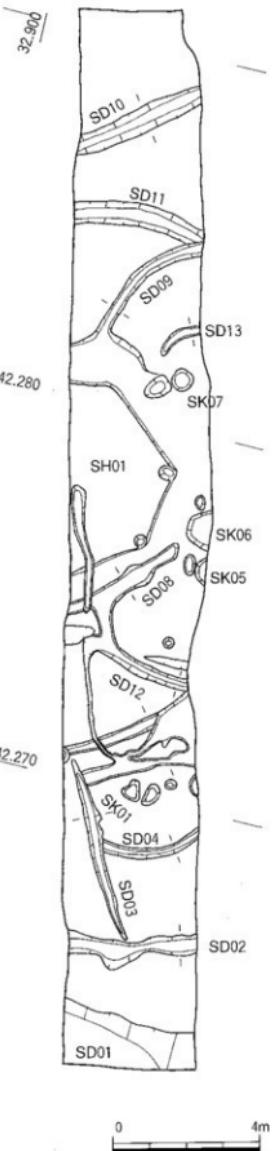
(注) 香川県教育委員会『埋蔵文化財試掘調査報告X 香川県内遺跡発掘調査』1997



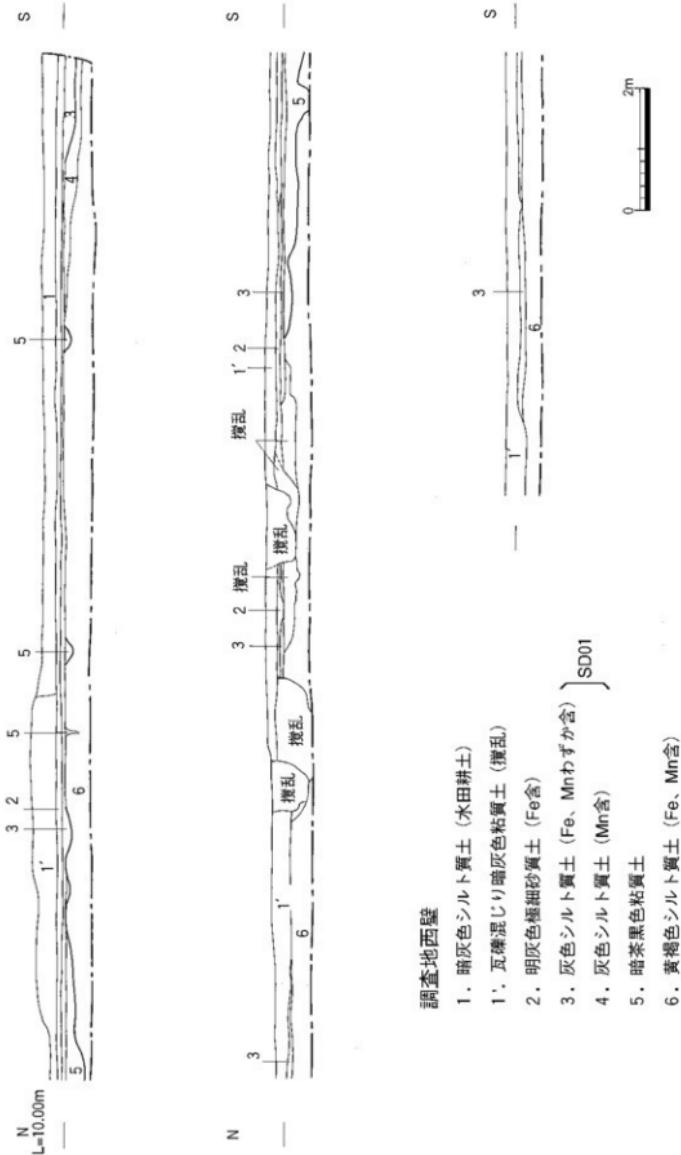
第1図 遺跡の位置および周辺の遺跡（縮尺1/25,000）



第2図 試掘トレンチ配置および遺跡位置図



第3図 遺構配置図



第4図 土層断面図

第2章 調査の成果

(1) 遺跡の位置

遺跡は、巨視的には大東川流域の平野中に、微視的には大東川支流の城山川が形成した緩傾斜の扇状地上に位置している。周辺には多数の遺跡が所在し、県内でも有数の遺跡集中地帯である。改修前の国道をはさんで西側には平成7年度に本調査(150m²)がおこなわれた川津井手の上遺跡が所在する。ここでは古墳時代終末期から古代初期にかけての合計6棟の掘立柱建物跡が検出されている^⑨。

注) 森下英治「県道改良に伴う埋蔵文化財調査概報 川津井手の上遺跡」香川県教育委員会 1996

(2) 検出遺構

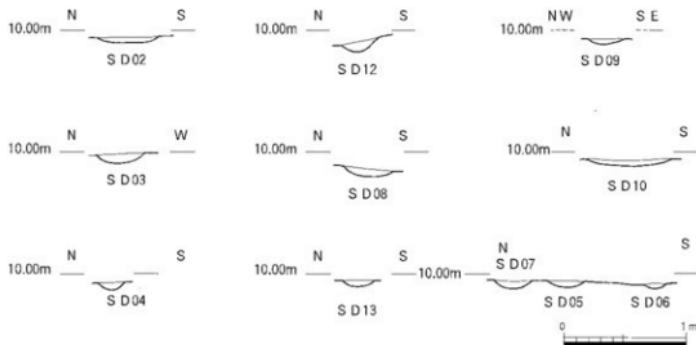
調査対象は幅約4m、延長29mの116m²である。主な検出遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡1棟、溝状遺構11条、古代の溝状遺構2条で、出土遺物は28リットル入りコンテナ1箱分の土器片である。以下に概要を記す。

① 竪穴住居跡

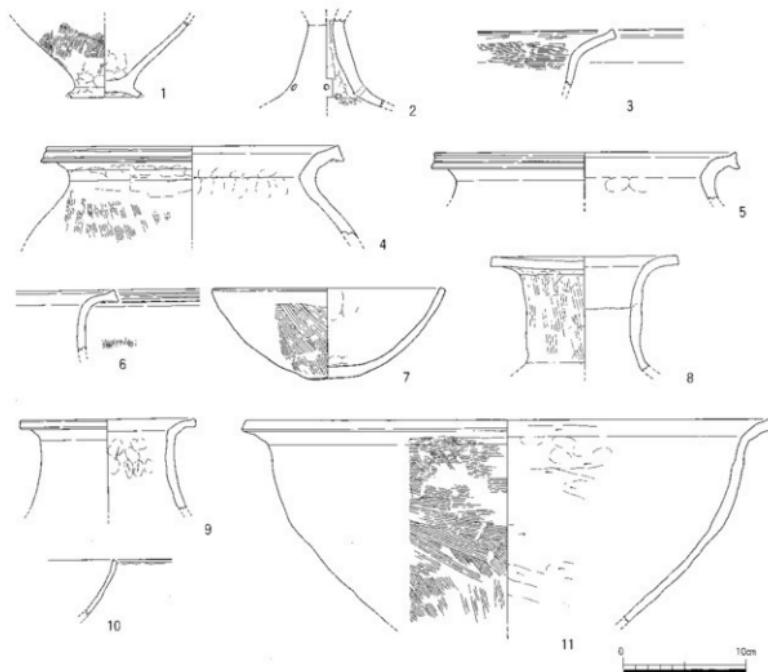
調査区の中央部で検出したもので西側は破壊されている。概ね六角形を呈する凹地があり、頂点3ヶ所のうちの2ヶ所で柱穴を検出した。これがベッド状遺構の内側に相当すると推定する。周囲のSD08やSD09南端部の落ちなどは竪穴住居に関わるものと思われるが、遺存状況が悪くプランを明確にできない。

② 溝状遺構・土坑

調査地から多くの溝状遺構および土坑を検出した。溝状遺構は灰色シルト質土で埋まるSD01とSD03が古代もしくはそれ以降のものと推定されるほかは、すべて暗茶黒色粘質土で埋まるもので、弥生時代後期のものと推定される。色調や土質の微妙な違いから判明した切り合いは遺構配置図に示すとおりである。SD04は平面プランから竪穴住居の壁溝の可能性が考えられるなど、竪穴住居などに関連するものがあると推定されるが詳細は明らかにできなかった。また、土坑としたものには不定形の落ち込み



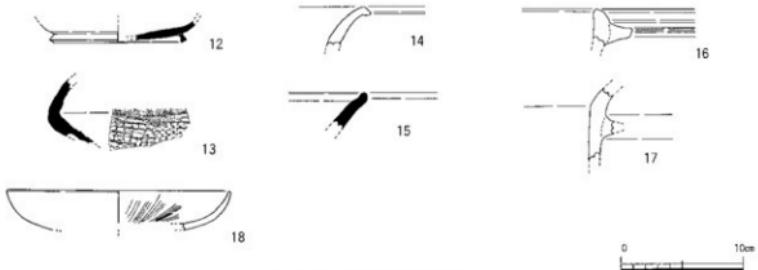
第5図 溝状遺構 断面図



第6図 出土造物実測図(1)

番号	器種	口径	底径 器高	胎土	色調	残存率	備考
1	弥生土器 台付鉢			2.0mm以下の砂粒含	内外 10YR4/1 福灰 5YR4/6 赤褐色	底部1/2	S K01
2	弥生土器 高杯			1.0mm以下の砂粒多く含	内外 7.5YR6/6 檻		S K01
3	弥生土器 盆			0.5mm以下の砂粒含	内外 10YR7/4 にぶい黄棕	口縁小片	S D05
4	弥生土器 鉢	23.6		2.0mm以下の砂粒多く含	内外 7.5YR6/4 にぶい棕	口縁1/8	S K05 5と同一個体
5	弥生土器 鉢	24.4		2.0mm以下の砂粒含	内外 7.5YR6/6 檻	口縁1/8	S D08 4と同一個体
6	弥生土器 盆			1.0mm以下の砂粒わずか含	内外 10YR6/3 にぶい黄棕 5YR5/6 明赤褐色	口縁小片	S K06
7	弥生土器 鉢	19.1	4.3	2.0mm以下の砂粒多く含	内外 10YR6/4 にぶい黄棕 7.5YR6/6 檻	5/8	S K07
8	弥生土器 盆		14.9	1.0mm以下の砂粒多く含	内外 7.5YR6/6 檻	口縁6/8	S D11
9	弥生土器 盆		14	1.0mm以下の砂粒多く含	内外 7.5YR5/6 明褐	口縁1/8	S H01
10	弥生土器 鉢			1.0mm以下の砂粒含	内外 5YR5/6 明赤褐	口縁小片	S K01
11	弥生土器 鉢	43.2		2.0mm以下の砂粒多く含	内外 5YR5/6 明赤褐	口縁2/8	S H01

第1表 遺物観察表(1)



第7図 出土遺物実測図(2)

番号	器種	口径	底径 器高	胎 土	色調	残存率	備考
12	須恵器 高台付碗		底径 10.4	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外 N8/ 灰白	底部1/4	S D01
13	須恵器 壺			0.5mm以下の砂粒含	内外 N7/ 灰白	頸部小片	S D01
14	須恵器 斧			0.5mm以下の砂粒含	内 2.5Y4/1 灰黄 外 2.5Y4/1 黄灰	口縁小片	S D01
15	須恵器 鉢			0.5mm以下の砂粒わずか含	内外 N7/ 灰白	口縁小片	S D01
16	土師質土器 羽釜			0.5mm以下の砂粒多く含	内外 2.5Y7/2 灰黄	口縁小片	S D01
17	土師質土器 羽釜			1.0mm以下の砂粒多く含	内外 10YR6/4 にぶい黄橙	体部小片	S D01
18	土師質土器 皿	18.1		0.5mm以下の砂粒わずか含	内 5YR6/6 橙 外 7.5YR7/4 にぶい橙	口縁1/8	S D02

第2表 遺物観察表(2)

もあり、S K05とS D08の遺物が同一個体であることなどから、溝の深部を土坑としている可能性がある。いずれにしても造構の遺存状況が悪いため詳細不明である。S D01は調査地の南端で北岸のみを検出したものである。

第6、7図に出土遺物の実測図を掲げる。弥生時代の遺物は後期の前葉から中葉にかけてのものと思われる。また、S D01の遺物は上層と下層の遺物を明瞭に分離できなかったため時期幅をもつものであるが、古代の範疇で捉えることができる。S D02は埋土から弥生時代の溝と考えられる。18の遺物は混入であろう。

第3章 まとめ

今回の調査は、可能な限り埋蔵文化財の保護措置を図ったが、十分な対応ができなかつた感がある。しかし、一方では施工者の坂出土木事務所をはじめ施工業者の理解と協力が得られたことを記しておきたい。遺跡の内容は弥生時代後期の集落が中心となるが、遺跡の集中する当地域において城山川の形成した緩傾斜の扇状地上での遺跡内容が今ひとつ明瞭でなかった。大東川流域では河川の當力による自然堤防などの微高地が集落として選地される傾向があるが、それよりも形成が古いと推定される城山川の扇状地上での遺跡の立地や内容について、今後事例の増加を待って検討を深める必要があろう。

ふりがな	いけのしたいせき・かわついでのうえいせき							
書名	池ノ下遺跡・川津井手の上遺跡							
副書名	国道・県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	木下晴一							
編集機関	香川県教育委員会							
所在地	〒760 香川県高松市番町2丁目1-10 NTTビル TEL 0878-31-1111							
発行年月日	1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
川津井手の上 遺跡	坂出市川津町	市町村	遺跡番号	34°16'58"	133°50'20"	平成8年 12月2~6日	110m ²	国道改良
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
川津井手の上遺跡	集落跡	弥生	竪穴住居・溝状遺構	弥生土器				



写真 1

調査前状況（北から）



写真 2

SH01検出状況（西から）

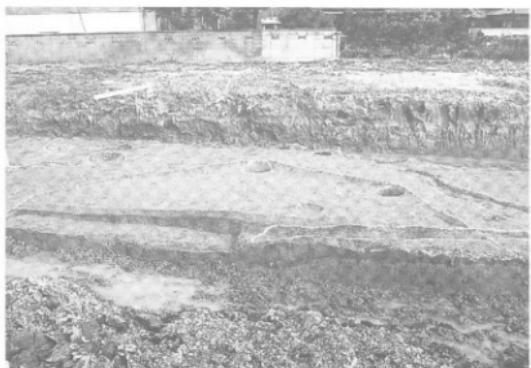


写真 3

SH01掘削状況（西から）



写真4
作業風景



写真5
完掘状況（南から）

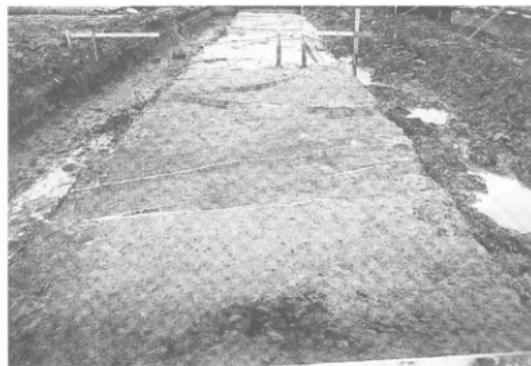


写真6
北端部掘削状況（北から）

国道・県道改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

池ノ下遺跡
川津井手の上遺跡

平成9年3月

編 集 〒760
香川県高松市番町2丁目1-10 NTTビル
香川県教育委員会

発 行 香川県埋蔵文化財研究会

印 刷 株式会社 中央印刷所

本書は版権者の了承を得て埋蔵文化財研究会で発行したものである。